

おしゃれなカップで コーヒータイム
喫茶 ブルーウェイ

〒040-0015 函館市梁川町10番25号
 テーオーデパート2F
 TEL(0138)31-0001 内線250番

(広告掲載：小池 凌一 会員)

◎ 5月15日出席報告

会 員	51名	出席率対象会員	49名
		出席規定免除会員	2名
当日出席	26名	当日欠席	23名
他クラブ出席	8名	出席合計	34名
出席率	70.83%		

・テレフォンサービス(例会移動案内)電話23-2377番

次回・6月12日

プログラム

「徳を尚(たつと)ぶこと 学知金権より大なり」

南北海道T・P・M会会長
 北海道教育者モラロジー研究会副会長
 全国教育者モラロジー研究会理事 遠藤 茂氏



The Weekly Report of

Hakodate North R.C.

函館北ロータリークラブ会報

2001~2002年度 国際ロータリーテーマ
 国際ロータリー会長 リチャード D. キング

人類が私たちの仕事
MANKIND IS OUR BUSINESS

薮下 義晴 会長テーマ 『楽しみと親しみのある出逢い・そして感動』



5月29日卓話 松井 正氏

《第1874回例会》 第44号 6月5日(水)

本日のプログラム

「海上保安業務について」

函館海上保安部部長 函館港長 上原 伸之氏

★会 長 薮下 義晴 ★幹 事 藤野 明信

例会場:函館国際ホテル 〒040-0064 函館市大手町5-10 TEL23-5151
 例会日:毎週水曜日 12:30~13:30 事務局:函館市大手町5-10 二チロビル4F TEL23-3870

5月29日の記録

◎司会 藪下 義晴 会長 ◎斉唱 奉仕の理想

◎ゲスト 北海道森林管理局 函館分局長 松井 正氏

◎ビジター 函館R.C. 川端久雄君

◎会長報告 藪下 義晴 会長

○小林ガバナーエレクトより中野会員へ社会奉仕委員会委員、藤野会員へ青少年交換委員会委員としてそれぞれ委嘱状が届きましたので伝達致します。

◎幹事報告 増田 定雄 副幹事

- ロータリーワールドが届きましたので回覧いたします。
- 千葉港R.C. 和歌山城南R.C.より会報が参りましたので回覧いたします。
- 函館亀田R.C. 6月3日の例会は移動例会に変更です。
- 委員長会議が近いので、各委員長はご準備願います。
- ロータリー手帳が来ています。

◎親睦活動委員会 山下 清司 委員

ニコニコBOX投入報告

- 藪下 会長……BOXに協力。
- 二葉 会員……ゲストスピーカー松井さんをお迎えして。
- 伊藤 会員……BOXに協力。
- 大和 会員…… ”
- 田畑 会員…… ”
- 森 会員…… ”
- 金子 会員…… ”

◎卓話「森林と人間との関わり、森林の機能について」

北海道森林管理局 函館分局 松井 正氏

I はじめに(林野庁函館分局の概要)

① 昭和22年5月、林政統一(農林省所管の内地国有林、内務省所管の北海道国有林、宮内省所管の御料林の統一)による組織再編により函館営林局として開局。

当初、函館市公会堂を仮庁舎とし、同年12月、現在の駒場町に庁舎移転。

② 函館分局は、道南(渡島、檜山、南後志、西胆振)の国有林39万haを管理。
(注 1haは100m×100m, 39万haは3900平方キロ)

管内国土面積の35%、管内森林面積の45%に相当。

特徴 ・半島部に位置するため海岸線が近く、地形は急峻、かつ複雑。
・森林は、冷温帯から亜熱帯への移行帯に位置し、ブナ、ヒバ等の北限、スギ人工林の経済的北限、トドマツの南限等多様な森林が分布。

・駒ヶ岳、有珠山等の活火山が多い。

③ 3森林管理署、2事務所、1森林技術センター、50森林事務所、職員約3百名体制。

II 森林と人間との関わり

1 森林の形成 - 森林は、人類にとって母なる存在

① 原始の地球の大気は、二酸化炭素が支配的。光合成を行い酸素を放出する生物(海中のらん藻植物)の登場により、大気中の酸素濃度が上昇。

② 約4億年前、海から陸上に進出した植物は、進化しながら森林を形成。
(木性シダ類→裸子植物→被子植物)

③ 森林は、大気中の二酸化炭素の吸収、貯蔵に貢献し、今日の二酸化炭素濃度は、0.03%に低下。森林に覆われることで陸地は湿潤な気候となり、人類をはじめ生物が棲みやすい環境に変化。

2 森林と文明の盛衰-古代文明は、森林を消費しながら発展し、これを切り尽くすことによって衰退。現代文明も森林を消費しながら繁栄。

① 森林減少、森林荒廃の原因は、居住地、農地拡大のための森林減少、燃料(調理、暖房用)、建築物、艦船の建造、金属の精錬、鑄造等のための森林の再生能力を超えた木材の伐採。

- ② 事例 ・シュメール(メソポタミア)文明
- ・古代地中海文明(古代ギリシャ文明等)
- ・中国黄土地帯
- ・近代ヨーロッパ諸国等

3 世界の森林の現状

① 世界の森林面積は、38億7千万ha。陸地面積の30%。
(FAO、世界森林白書2001。森林：樹冠面積が地表の10%を占める0.5ha以上の土地。)

② 今から8千年～1万年前は、現在の森林面積の2倍あったと推定。(WWF)

③ 最近10年間(1990～2000)の森林の変化は、年平均で

世界計	グロス	△13.5百万ha	ネット	△9.0百万ha
うち熱帯諸国	"	△13.5百万ha	ネット	△11.7百万ha

熱帯地域においては、年間に日本の国土の3分の1に相当する森林が減少している。(FAO)

④ 熱帯地域の森林減少の原因は、農地への転用、再生能力を超える過放牧、薪炭材の過剰採取等。背景には、人口の急増と貧困、経済活動の活性化等。

(参考) 世界の丸太生産量 単位：億m³

世界計	33.5(100)	薪炭用材	17.7(53)	産業用材	15.9(47)
先進国	13.6(41)		21.1(6)		11.5(34)
途上国	19.9(59)		15.6(47)		4.3(13)

(FAO)

4 日本人と森林との関わり

① 国土の7割近くが、なお森林である日本は、先進国の中でも高い森林率を維持。これは、森林の生育に適した気候(降雨量、気温)、他の土地利用に適さない急峻な地形。

② 加えて、先人たちが木材を有効に利用しながら、森林を守り、再生させる努力の結果(「森林文化」「木の文化」の形成)。

・縄文時代－樹種による木材の性質の違いを知り、用途に応じた使い分け。

循環型の集落が1500年もの間継続(青森県 山内丸山遺跡の例)

・飛鳥時代－寺院、宮殿の建築で森林が荒廃し、676年初の伐採禁止令

(奈良県 飛鳥川上流域)

・中世・近世－入会林(村落による共同利用形態)での森林利用を自主制限
産業的植林、土砂流出防止のための植林、海岸砂防林の造成等

・明治以降－保安林制度、国有林の保護林制度、国民的緑地化運動等

③ 高度経済成長以降、森林は縁遠い存在、木材に接する機会も減少。
(農山村から都市への人口集中、第一次産業から第2、第3次への就業者移動。木材のコンクリート、金属への代替。化石燃料、非木造住宅及び大壁造りの普及。)

森林を守り育ててきた林業は停滞、その活動の場としての山村は衰退。
結果、森林の健全性を確保する上で必要な間伐が行われない等の問題が顕在化。

5 日本の森林資源の現状

	日本	うち北海道
森林面積	25.1百万ha(国土面積の67%)	5.6(道面積の71%)
うち国有林	7.8 (森林面積の31%)	3.3(森林面積の57%)
都道府県	1.2 (" 5)	0.6(" 11)

用材自給率	昭和30年	95%(総需要量 65百万立方m、うち薪炭材20)
	昭和39年	73 (" 79 " 8)
	昭和12年	49 (" 100 " 3)
	昭和12年	18 (" 100 " 1)

Ⅲ 森林の機能

1 森林の機能評価(平成13年11月、日本学術会議とりまとめ)

- ① 生物多様性保全 (貨幣評価額/年)
遺伝子保全、生物種保全、生態系保全
- ② 地球環境保全
地球温暖化の緩和(二酸化炭素吸収、化石燃料代替エネルギー)－1.5兆円
地球気候システムの安定化
- ③ 土砂災害防止・土壌保全
表面侵食防止、表層崩壊防止、
落石防止、飛砂防止等、防風、防雪、防潮等

- ④ 水源涵養
洪水緩和、水質源貯留、水質浄化、
水量調節 - 29.8
- ⑤ 快適環境形成
気候緩和、大気浄化、快適環境形成
- ⑥ 保健・レクリエーション
療養、保養、レクリエーション - 2.3
- ⑦ 文化
景観・風致、学習・教育、芸術、宗教・祭礼
伝統文化、地域の多様性維持
- ⑧ 物質生産
木材、食料、工業原料、工芸材料

(計 70.3)

2 特に今後の社会における森林・木材の意義

- ① 自然界の重要な構成要素となっている森林は、太陽エネルギーを基に持続的に木材を生産するとともに、森林生態系内でいろいろな物質を循環させるメカニズムを備えていること。
- ② 地球温暖化防止が大きな課題となる中で、二酸化炭素を吸収し貯蔵する森林の機能や固定された二酸化炭素を貯蔵し続ける木材の機能が重要性を増大。
- ③ 現代社会がますます高度に発展していく中で、森林や木材が人間にもたらす心地よさや安らぎ等の感覚的、心理的な効用が重要性を増大。

3 森林の多面的な機能の持続的発揮に向けて

(1) 国際的取り組み

① 持続可能な森林経営

- ・1992年「国連開発環境会議(地球サミット)」での「森林原則声明」の採択
森林を生態系としてとらえ、森林の保全と利用を両立させ、森林に対する多様なニーズに永続的に対応すべきとの「持続可能な森林経営」の理念。
行動計画としての森林減少対策。以後、国連を中心として行動提案等。
- ・日本は、技術協力、資金協力等の二国間協力、国際機関を通じた協力、NGO等が行う海外植林への技術支援等を実施。

- ② 地球温暖化防止(二酸化炭素の吸収源としての森林の役割)
- ・地球温暖化問題に対応するため、気候変動枠組条約が1992年採択。
1997年(第3回締結国会議)京都議定書で、先進締結国全体の温室効果ガスの削減目標として2008～2012年平均排出量を1990年の排出量(基準年排出量)と比べ5%削減。日本は6%の削減を約束。
議定書では、排出削減目標に参入しうる吸収量は、1990年以降に森林経営等の人為活動が行われた土地の吸収量に限定。
 - ・2001年(第6回締結国会議)、日本は、森林経営活動による吸収量の適用上限値1300万炭素トン(対基準年排出量比3.9%、二酸化炭素換算4767万トン)で合意。
 - ・平成14年3月、新たな「地球温暖化対策推進大綱」決定。
平成13年10月の森林・林業基本計画に沿った森林整備等が必要、仮に現状程度の水準の森林整備等では3.9%を大幅に下回るおそれ。
- ③ 生物多様性の保全
- ・1993年「生物の多様性に関する条約」発効。締結国会議による議論等

(2) 日本の取り組み

- ① 平成13年の新たな「森林・林業基本法」の制定と「森林・林業基本計画」
- ② 考え方
- ・森林の多面的機能発揮に向け重視すべき機能に応じた森林整備
→水土保全林、森林と人との共生林、資源の循環利用林に区分し森林整備等を計画的に実施
 - ・林業の持続的かつ健全な発展
(林業は再生可能な木材の供給、多面的機能発揮に重要)
→施業、経営の集約化等の構造改革、路網整備、高性能機械の更なる導入等による生産コストの低減、人材育成
 - ・林産物の供給、利用の確保
(木材は環境負荷の小さい素材、木材の適切利用により伐採、植栽、保育のサイクルが循環し林業が持続的に発展)
→木材需要拡大、未利用資源の有効利用、木質バイオマスのエネルギー利用木材産業の構造改革

(会報担当者：阿部 誠太 委員)



ノースアイランダースの演奏にあわせて女性職員の
フラダンスに園生は大喜びでした。

※函館北ロータリークラブのハワイアンバンド・ノースアイランダースが、クラブの社会奉仕活動の一つとして毎年実施している老人施設への訪問演奏会を去る6月2日(日)実施いたしました。訪問先は、長万部の特別養護老人ホーム慈恵園(川村園長・園生80人)で実施されました。川村園長の司会で高森理事、薮下会長挨拶のあと函館北ロータリークラブから記念品を長万部長愛会理事の高森理事に手渡され、お礼の挨拶がありました。

セレモニー終了後、演奏に入り、ハワイアンメドレーのあと、中川会員と小池会員の歌とサクソホンでナツメロを演奏し、皆さん若き日を思い出すかのように聞き入っていました。引きつづき田畑会員による歌唱指導とバンド演奏で童謡を3曲、園生・職員全員で歌いました。



田畑会員による歌唱指導バンドの演奏にあわせて
園生・職員全員で童謡を歌いました。

最後にブルーハワイ・アロハオエの演奏にあわせて、女子職員がフラダンスを踊り会場は拍手喝采で最高に盛り上がりました。

別れ際にベッドの上で聞いていた園生から目を潤ませながら、ありがとう、と言われ私も感動しました。

今年もまた、よい思い出が出来ました。園生の皆さんにいつまでも元気で長生きして下さい、と願いながら訪問先慈恵園を後にしました。

函館北ロータリークラブ・ノースアイランダース

担当 大和 明